

2014年度前期卒業式式辞 2014年10月28日 尾池和夫

京都造形芸術大学を卒業する19名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、先生方に、ご家族の方々に、友人に、また先輩や後輩に祝福されて、この卒業式を迎えました。参列の瓜生山学園の役員、副学長、学部長、教職員とともに、みなさんの門出を心からお祝いします。

これから企業に就職して活動する方、進学してさらに学習と研究に励む方、作家としての活動を目指す方、実に多様な進路があると思います。本学を出ると、そこには社会の厳しい試練が待っていることと思います。試練に出合った時、この大学で学習したときのことを思い出して、そのときに蓄積した知識を駆使して、試練を乗り越えることを願っています。ときには、何としても新しい展開が得られないということもあるかもしれません。今日の卒業式の後、この大学は皆さんにとっての母校です。どうにもならないという壁に向かった時には、この母校を思い出して、躊躇することなく母校を訪れてください。私たちは同窓会の仕組みを整備しながら、この京都造形芸術大学のキャンパスを維持し、改善して、皆さんの来られるのを待っています。

皆さんが4年以上を過ごして、この京都造形芸術大学を出るとき、もう一度、人間館を出たところにある「藝術立国之碑」を読んでみてください。そこにこの学園の建学の理念が刻まれています。その理念を提唱した瓜生山学園の創立者である徳山詳直さんは、この20日、85歳で亡くなりました。私たちはその創立の理念をしっかりと受け継いで、芸術の力で人類の福祉に貢献する活動を続けていきたいと思っています。皆さんも、少しだけ時間をさいて、学んだこの大学を振り返って見て下さい。そのときの感慨を記憶に留めて、明日からの活動に備えてほしいと思います。

皆さんが学習の拠点としてきたこの京都盆地は、百万年ほど前からの活断層運動によって形成された盆地であり、世界的に見ても珍しい街です。1300年にわたって都市が発展を続けており、長い間、日本の都が置かれた街です。都でありながら、城壁がないというのが京都の大きな特徴です。堆積層にある豊かな地下水によって、茶の湯が生まれ、京料理が育てられました。そこには自然からの恵みを生かす知恵が蓄積されており、伝統の技が磨かれて伝えられています。皆さんには、その文化を世界の人びとに伝えることもお願いしたいと思います。

それとともに、芸術の力で、世界の平和を実現するという『藝術立国』の思想も、国境を越えて伝える必要のある思想であり、今日、卒業される皆さんにも、それをさまざまの形で伝える人になっていただきたいと、私は願っています。

つい最近、私は北京で、かつて京都で学習した2人の方と出会い、その方たちとともに、北京からさらにジェット機で3時間の場所にある中国南西部の貴州省の省都、貴陽市に行きました。やはりそこにも、かつて京都で学習した方たちがいて歓迎してくれました。貴州大学の学長である鄭強先生は、京都での学習で得た経験を大切にしながら、世界的に活躍する大規模な総合大学をリードしています。薬学で先進的な研究を進める学者たちもいて、私たちを案内してくれました。京都での学習体験を大切にすることが、このように世界の各地で活躍しています。

くれぐれも体を大切にしてください。今日卒業される皆さんにも、どこかでまたいつかお目にかかりたいと思います。そのときには、ぜひご自分の仕事の話をお聞かせくださるようお願いして、私のお祝いの結びといたします。

ご卒業、まことにめでとうございます。